

「えねこや」代表・湯浅氏 インタビュー（後編）

（中編より続き：文責・聞き手：市民研理事 橋本正明）



FAVVO クラウドファンディング HP より:

<https://faavo.jp/tokyochofufuchu/project/3475/report/23053#pj-single-nav>

お話が変わって済みません。結局、移動式えねこやのチラシ見たつもりで居たんですけども、どの位の生活レベルを満たすものなんでしょう。キッチンといいますか、内部の水廻りの設備的なものとしては。

湯浅：トイレとかを付けようかとも思ったんですけど、メインの目的が色々な処へ行って行って再生可能エネルギーの普及活動を行うことだったので結局やめてシンプルな空間にしました。

やはり太陽電池とか、バッテリーとか、その辺の物をという感じでしょうか。

湯浅：事務所の鉛バッテリーはベント式だし、重くて入れられないんですよ。まあ、太陽

光パネルも最大4枚しか載せられないから、うち（六曜舎）が12枚で、その1/3くらいでしょうか。バッテリーは恐らく鉛のシール形（密閉式）で小さめのものを4台くらいかな。車体重量が今でギリギリでして、1980 kgを超えられないんですよ。



（えねこや完成披露式:写真 橋本 正明）

自分の中のイメージとしてはキャンピングカーみたいな物とかに近いかなと思うのですが。

湯浅：ええ、キャンピング・トレーラー登録にはなります。

なるほど。

湯浅：下のシャーシ（車台）は、いま（インタビューは2月）山梨で造ってくれています。これにプレートを付けたり、ブレーキが付いたりするんですよ。これを牽引するのは、ここにある緑の20年前のランドクルーザーで、牽引するための“ヒッチメンバー”を付けて、それで引っ張って行くと感じます。



（4月29日イベントより:写真 橋本正明）

この近くの深大寺という処で境内の一部を借りれることになったので、そこで上部の小屋の組み立てのワークショップを4月から毎週末行います（※注1：取材は2月中旬に行われました）。

※えねこや完成披露動画：<https://youtu.be/FcUFROP9GmY>

※ちょうふネットテレビ動画：
https://www.youtube.com/watch?v=w_Swev0BgB8&feature=youtu.be

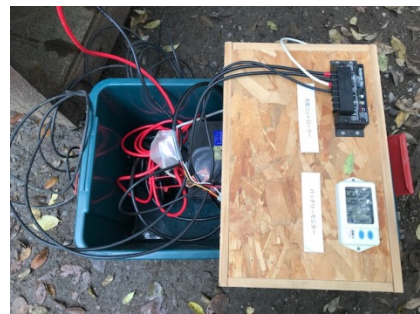
素晴らしい取り組みですね。

湯浅：できたら、その先のことも考えておかないと。できっ放しというのもモッタイナイので。

『移動式えねこや』、ということでイベントを廻ってということですか。

湯浅：そうですね。5月に調布で「アースデイ in 調布」や「環境フェア」などいくつかのイベントがあるので、それを駅前に持って行こうと思っています（※ この後、諸事情により「アースデイ in 調布」に移動式えねこやは出展間に合わず）。

今まで使っていた（コンパクトな）「えねこや屋台」よりはインパクトが有ると思って(笑)



（えねこや屋台：写真 橋本正明）

車だから移動もしやすいですね。

湯浅：そうですね。でも車長は全部足すと10mくらい有るんですよ。

イベントなんかで駐車場に停めてやるというのでしたら何ですけれど、普通の市民会館などで出入りする際に狭いとマズイという感じでしょうか。

湯浅：あっ、そうですね。これ狭い所は通れないんです。幅は自動車の最大寸法にしてますし。

頭だけ突っ込めても戻ること考えると、こういう牽引する車と小屋本体が別々の構造

になっていると無理ですね。

湯浅：そうですね。急に向きは変えられないですよ(笑)

トレーラーと一緒にですね(笑)

湯浅：本当にトレーラーそのものです。自分も免許は取りましたけど、教習所では普通のトラックに荷台のトレーラーが引っ付いているような車を使っていました。でも移動式えねこやの方が運転が難しいんじゃないかなと思っています。

未知の世界ですけど、まあ慣れるかなと。ザックリしてますけど、楽しそうじゃないですか(笑)

楽しいと思います。スゴく(笑)

湯浅：これ小屋好きの人にもハマるかなと考えています。エネルギーや地球環境の問題となると、どうしても堅苦しくなってしまうので。

あのう、DIY とかで自分の小屋を作るとか、メールで申し上げたように NHK さんで放映している『所さん、大変ですよ！？』の過去の放送に有った話題、あれも DIY で軽トラックの荷台に部屋を作ったという内容でした。

湯浅：ああ、知ってます、知ってます(笑)

結構、流行っているって話…

湯浅：流行ってきてますね。

あれで、「えねこや」っていうのもアリじゃないでしょうか。

湯浅：そうですね(笑)

かなり雑なご提案ですけど…。

湯浅：まあ、そういうのもアリだとは思いますが。

多分、ああいった方々って太陽電池を屋根に付けて蓄電池とか積んで…

湯浅：それでやっている人って結構いますよね。



(えねこや完成写真:橋本正明)

いらしてもという事でしたら、その辺のニーズも拾っていただけるのではと思うんですが。

湯浅：元々、僕がこれを考えたのはね。このシャーシを造ってくれている竹内さんが造った木製のトレーラーハウスを何かで見て面白いなと思って。日経で渋谷の交差点をこれが通行している記事もあるんですよ。それでちょっと話を聞きに行ってみたら、いろいろ教えてくれて…、それでちょっとやってみようかなと思ったんです。アメリカでは、こういうトレーラーが結構普通に走っていて。楽しそうじゃないですか？

楽しいと思います！

湯浅：これでちょっと、同じデザインでは何だから片流れにして太陽光パネルを載せて。で、彼も実際にここら辺にバッテリー積んでいて現実やってるんだなぁというのが判りました。

なるほど、そうなんですか。

ところでそう言えばまた話は変わりますが、WOTA という会社が有るんですけど、そこでやっている膜ろ過式の完全水循環型ユニットシャワールームというのが有りました、そういうのが移動式のえねこやに入れば、ミニキッチン+水循環式シャワーで…、金額はさておきですけども。そう言ったものが可能といえば可能ではないかと思います。そういった優れた技術を持っている会社とコラボしてみるというのももっと面白い展開になるのではないかと思います。

湯浅：1 個目は居住スペースのみですし、もう採用は難しいですが、2 個目、3 個目を造れるなら水廻りが有ってもいいですね。

(中略)

…その上でこういった家の方で再生可能エネルギーをメインにした電力会社さんの電気に頼らないそういったシステムというのは個人的に私が考えている街の中に在る家としての理想形に近いのではないかと思います。

湯浅：まあ、オフグリッドがすぐに普及するとは思えないんですけど、反面 2019 年問題があって、どんどん太陽光発電の売値が安くなるので、売電のメリットが無くなると思うんです。

あのう、その辺はやっぱりブレークスルーを促すためのストレスなのかなと、ここで廃れるかここでブレークスルーするかという多分瀬戸際に来ているのではないかと思います。

湯浅：いよいよテスラの 13.5KW の蓄電池が入って来るみたいで、但し金額が急に上がったんですよ。結局 100 万位で入れてくれるらしいです(笑)

確か電気自動車の方も金額見直したりで大変みたいですよ。

湯浅：当初は HP にもオフグリッド対応って書いてあったんですよ。でも当面オフグリッド入ってこないんです。

えっ、そうなんですか。

湯浅：直流 (DC) を期待していたら、そうじゃなくて結局交流 (AC) しか入れられないって日本法人の方が言っていたので、じゃあウチ使えないなと思ひまして。

ということは、何だかんだ色んなことがあると結局余計なコストが掛かってしまうという事ですね。

湯浅：そうですね。結局のところ材料だけでは売らずに、材工でやるということらしいです。

ああ…、そうですか。耳が痛いですね(笑)

(中略)

湯浅：まあ、テスラも入って来るし、日本の蓄電池メーカーも価格や機能を少しずつ変えてきているようです。オフグリッドまでいかないにしても、どちらかという若い人に向けて、再エネの可能性を訴えたいというか、エネルギーを自分事にして欲しいという気持ちが強いです。

仰る通りのことが必要と思います。今はその過渡期だと私は思います。

湯浅：本当にこうやって自分のとこでやってみて、十分快適に暮らせる訳じゃないですか。だから、わざわざ巨大な発電所で電気を造って、遠方からロスしながら運んで来るくらいなら絶対、自分のとこでやった方が気持ちいいですし

全くその通りだと思います。

湯浅：ただし、一般の方々がどこまでエネルギーや電気のことを考えているのかは、また別問題でして。

今のところはそうですね。可能性の選択肢を数多く示して尚且つ普及を考えた提案をすべき時に来ているのではないかと思います。

湯浅：勿論そうです。この蓄電システムは山梨で1軒設置してきました。メンテナンスでは水入れたり薬入れたりして。

いや、それだと一般の方々は中々手を出しづらいです。

湯浅：確かに。だからテスラに期待していたんですけどね。以降、日本の蓄電池のメーカーさんにも来てもらって話をしたんですけども、諸事情があってオフグリッドは難しいと言っていました。

日産さんもリーフの蓄電池の

湯浅：リサイクルですね。

そうです。あと離島向けのシステムで3年位前に実証実験があったようですが、今後中古の電気自動車のバッテリーを利用してという方向は検討すべきではないでしょうか。

湯浅：確かフォーアール（4R）エナジー社がリーフのリサイクルバッテリーで12kwh位の家庭用蓄電池を出していたはずですが、まだ価格が高いんですよ。ウチは18kwhですけども実質9kwhなんで。鉛蓄電池では半分以下にしてはダメなんですよ。まあ、半分以下になるのは年1～2回しか無いので問題は無いんですけど。

そういう意味では金銭的な部分とシステム上の問題が、僕も専門家ではないんで、なかなか難しいところです。

そうですね。蓄電池の話は、また別の深い話になってきますものね。

湯浅：電気の話は、あまり詳しくなくてすみません。

いいえ、大変参考になりました。色々と深いんですね。この分野は。

湯浅：深いですよ。色々な絡みが有りますし、と言っても「鉛はアリかな」と思っているんですけどね。リチウムに比べればリサイクルのシステムがかなり確立されてますしね。

重いというのが最大のネックですね。

湯浅：繰り返しますが、家ならいいんですけどね。ただ、問題はメンテナンスかな。常に何かしなければいけない。そこが楽しめる人じゃないと、なかなか難しい。

逆にそこをやるようなサービスとか。

湯浅：そうなんです。実は今、僕の知り合いの建築家が設計している住宅があって、そこに見積を出しています。

ウチで工事もやらざるを得ない状況で出しているのですが、やっぱり蓄電池のメンテナンスがネックになっています。1年に1回薬剤を入れるのはまだいいんですけど、補水については、夏と冬とで水の蒸発の仕方がかなり違うし、結構気を付ける必要があります。

あっ、なるほど！

湯浅：浮きが下がったら水を入れなきゃいけないのですが、そこをシステム化してお金もらうか。商売として成り立つだけのお金がもらえるかというところですね。

例えば今思いついたアイデアなんですけど、現在、太陽光パネルの経年劣化による問題というのが出てきていますけど、そういった定期メンテナンスというのを例えば町の電気屋さんとして月に1回廻ってチェックするサービスを年会費を載せて行うというのはどうでしょうか。要は街の活性化というのと相まって…。



(ペレットストーブに点火:写真 橋本 正明)

湯浅：それはいいですね。町の電気屋さんを使う。

はい、街の専門家。そういう小回りが利きますから、大企業とか大きな流通サービスとかいう発想ではなくて、そういった人たちの細かいニーズを拾っていけば仕事になりますし、高齢者の独居とか見廻りサービスという意味も持てますね。

湯浅：なるほど、そういったシステムを考えてみるのもいいかも知れませんね。

ええ、ですので例えば町内会ぐるみとか、そういった地域的なやんわりと緩いしがらみ、ギチギチしたしがらみではなくて。

湯浅：つながりですね。しがらみではなく（笑）

街場の方々のお力を借りれば、きっと上手く廻りそうな気がします。

湯浅：いいかも知れませんね。システム自体は自分でやりたいという訳ではないんですが、やれる人が今いないので…。ああ、セミナーをすればいいんですね。

そういったポジションに近いスペシャリストの方を引き込んで、そういった方を通じて、それをキッカケに全国展開してみるとか、そういったグループが、例えば市民発電の仲間のツテでもってその街場の電気さんのつながり etc…。そういった方々を通じて、地域に飛び火していけば、全国的なネットワークとなるとすごく大きな力になると

思います。



(右の写真 左側:えねこや代表湯浅氏 右側:自エネ組代表大塚氏 写真:橋本正明)

湯浅:いや、市民発電ね。周りにいっぱいいるんですよ。そうか、そこに訊けば少し進展するかな。紹介してもらおう。

スペシャリストを知っている方々に訊いてみるとか、声を上げて「こういう方知りませんか」とかいうのもいいと思います。何かのキッカケになるんじゃないかと思います。例えば「この人は知らないけど、こういう人なら知ってるよ」とか、思いもしない何かが出てくるかも…

湯浅:そうですね。あまりこういう事はして来なかったですね。自分のことで精一杯でしたから。それじゃあアナログでもいいけるのかな。アナログでも悪くないと自分は思っているんだけど。

すごくいいと思います。私すごくリーフの話とかしてますけど、リーフ自体リチウムとかニッケル水素とかあまり普及してないじゃないですか。

そのメンテナンスって考えたときに、やっぱりローテクで普及してメンテナンスというのも一応心得があれば、自分で出来なくもないレベルなんだけど、一般の人は「やりたくない」。そこにやっぱりチャンスが有るんじゃないかという気がします。

湯浅:ゴミどうなんだって話もあるし、いいかも知れないですね。

町の電気屋さんで発想は無かったなあ。それはでもいいかも知れない。ただ、興味を持っている人じゃないとダメですね。それでも人づてに聞いてきたら、若い人にね。そういう人がいると本当に嬉しくなるんだけど、自分事にしてね(笑)

自分事にしてるといってもありますけど、この仕事ってこういう奥行があるんだって、やっぱり見えていらっしゃる方は相手に伝えられる。

それに私が言うよりも、実際にやっていらっしゃる湯浅さんが言われる方がより明確に伝わってくるんじゃないかと思います。

湯浅：とんでもない、いいところ悪いところありますけど

ご自分でやっていらっしゃるって事は、専門家じゃないけどそこら辺、実践者の知識というものがありますから。その言葉の重みって全く違ってくると思うんです。

湯浅：いや、なるほど。そうですか。

あんまりこうなってしまうと周りが見えなくなってしまうですけどね。

あと持論なんですけど、イノベーションとかって案外専門外の知識ってとても大事で、だから専門分野でない知識がこう使えるんじゃないかというのをあちこちから引っ張ってお話するのが大好きなんです。

お役に立てると嬉しいです。今後とも是非宜しくお願いします。

湯浅：こちらこそ宜しくお願いします。

先日の急な訪問日程のご相談にも関わらず、本日は快くお時間取って頂き誠にありがとうございました。

以下に完成後バージョンアップした【移動式えねこや】の写真を数カット掲載させていただきます(撮影:(一社)えねこや代表理事 湯浅 剛氏による)。



(充電コントローラー／インバーターとバッテリー廻り：蓄電モニターを設置)



(ミニキッチン廻り／ロフト用のハシゴと手すりを設置)



(6畳用のエアコンを設置／多摩川自然情報館にて展示)



(移動式えねこやのパネルも、協議会から無償で提供していただいたものです)

(一社) えねこや 東京都調布市深大寺北町 2-28-6 (アトリエ六曜舎内)
TEL : 042-483-8686 FAX : 042-444-7071 mail) info@enekoya.com
Home Page ; <http://enekoya.com/>